

統合失調症__症状

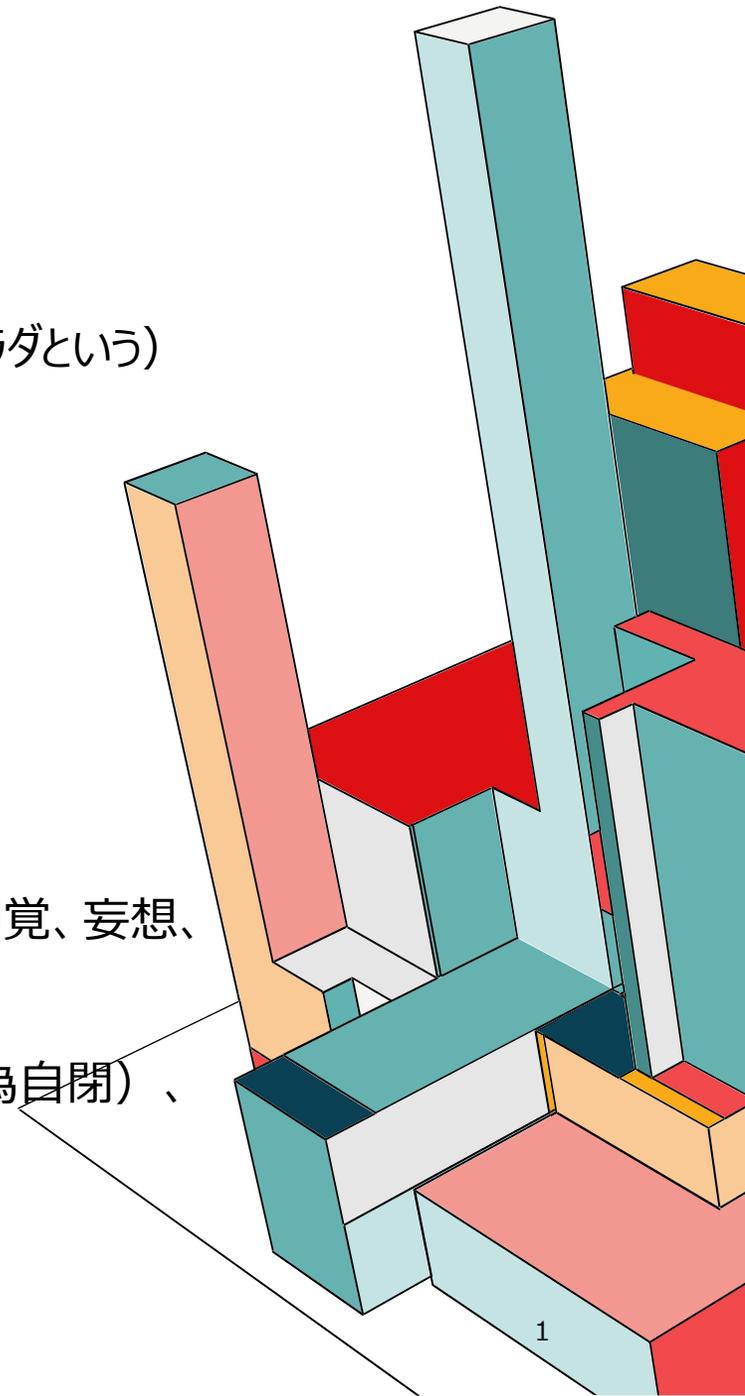
Bleulerの基本症状（4A）

- ・連合Associationの弛緩：思考のつながりのゆるみ（最も著しい場合を言葉のサラダという）
- ・両価性Ambivalent：妄想と現実の共存や相反する感情・衝動の共存
- ・感情Affectの表出異常：感情鈍麻や空笑などの不適切な感情表出
- ・自閉Autism：外界との接触回避、内界への閉じこもり

陽性症状と陰性症状

陽性症状（中枢神経系の上位機能の統制から開放された残存機能の表現）：幻覚、妄想、思考減裂、緊張病症状

陰性症状（上位機能の喪失）：感情鈍麻、思考貧困、意欲・自発性欠如（無為自閉）、失快楽症（アンヘドニア）

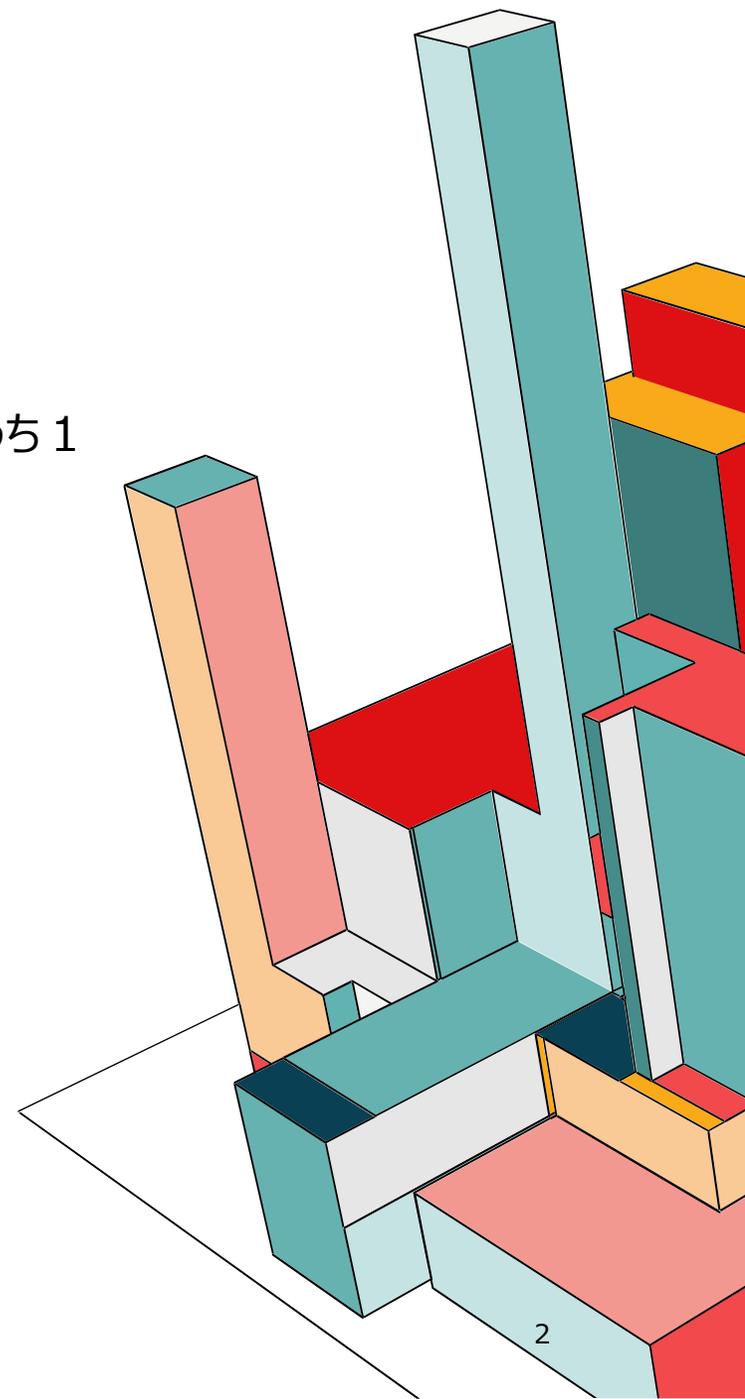


統合失調症__診断基準

DSM-5-TR ※一部改変

A.特徴的症狀として、以下のうち2つ以上が1ヶ月間ほとんどいつも存在する。そのうち1つは①か②か③である。

- ①妄想
- ②幻覚
- ③まとまりのない発語（例：頻繁な脱線または滅裂）
- ④ひどくまとまりのないまたはカタトニア性の行動
- ⑤陰性症状（すなわち、情動表出の減少、意欲低下）



統合失調症__病型

- ・**妄想型**：幻覚妄想が主で、思考滅裂や感情鈍麻は目立たない。（予後が比較的良好）
- ・**解体型**：会話／行動の解体や感情の平板化、不適切な感情表出を頻繁に認める
- ・**カタトニア型**：カタレプシーまたは昏迷、過度の運動活動性（緊張病性興奮）、極度の拒絶症、奇異な姿勢、常同運動、反響言語／動作などを優勢な特徴として持つ
- ・**残遺型**：顕著な幻覚・妄想や会話／行動の解体がなく、陰性症状が主体

